理研会報二百号発刊を記念して、一号、五十号の一部を載せてみました。

理研会報の歴史

第50号　理研会報　昭和46年6月12日

重責に思う

研究部長　飯田和幸

此のたび諸先生方のご推示により研究部の仕事に携わることになりました。とまどいと責務の重大さを感じているものでございます。

地域社会の高度的発展と科学技術のすばらしい進歩を思うとき、子どもたちへの期待と要望も教師に課せられる指導上の諸問題にかんがみてこれからの課題として精一杯努力しなければならない点だと思います。

私は日頃熱心に研究活動に取りくむ先生方を尊敬しておりましたが、これから先、活動のしやすい研修の場を設定し、先生方が一歩なりとも前進をし、その成果をあげることができたならばと念じているものです。

さいわい諸先輩が残された堅い実績がございます。この実践の積み上げを配慮し、基盤として、時代の進歩に先がけるよう、より結束を固め、日々の研究を推進したいと思います。

先生方の豊富な実践、体験の記録、貴重な実験の工夫、模様の紹介、意見交換などいろいろの研究は、何時でも同じ。五十号の発刊は、一つの区切りとなります。編集、発行と、ご苦労の多いことと思います。

理研会報

発行　印教研　理科研究部
事務局　成田市950　成田小学校内

バトンを渡して

このたび酒々井小学校校長飯田和幸先生に研究部長をお願いすることになりました。先生は出張所にお入りになる前に副部長をなされており、キャリアも十分、私の足りなかった分をそそがし埋っていただけるものと確信いたしております。

大が豆腐本当に名ばかりの部長で、伝統のある研究部の発展に何等寄与することもできず、今要はじいる次第です。只部員一同の絶大なるご協力とご支援によって或程度の実績を推移できましたことは、今後踏のさぞかし思いでいっぱいです。

又、四前期小、成田ら、ターには大なる、した。

会報発刊について

研究部長　板橋義夫

理科作品展

理科作品展入賞者

四十年度、児童生徒

理科作品展

(1)　昭和40年11月10日